



# 令和3年度 東林中 PTA だより 第2号

令和3年12月吉日

発行責任者 PTA 会長 篠塚 千寿子

令和3年度PTAテーマ

『ともに支え、ともに歩む』

生徒の輪、先生の輪、保護者の輪、地域の輪、東林中の輪

## 地域の目、大人の目

PTA 会長 篠塚 千寿子

テレビやネットでは、中学生の事件が取り上げられています。事件が起こる前にどうにかできることはなかったのかと、とても悔しく胸が締め付けられます。

これは子どもだけではなく大人にもいえることで、環境や人間関係、本来持っている性格など複雑に絡みあっているため、こうしたら良いという正解もなく、なかなか難しい問題です。

特に今は感染症拡大防止を重視するあまり、人とのコミュニケーションが希薄になっていることが、原因のひとつになっているのではないのでしょうか。

マスクを付けていることで、ちょっとした表情の変化から相手の気持ちを読み取ることも難しくなりました。人との距離を取る、黙食をする、必要最低限での行動。今まで当たり前のようにやってきた行動すら制限があり、たわいもない話をする機会も少なくなりました。

そんななか、メールや SNS 等で気軽にやりとりができる時代の流れに救われている人がいる一方で、そのツールでのコミュニケーションに苦しさや辛さを感じている人もいます。

幼稚園や保育園、小学校、中学校、家庭。ずっと、あまり変わらない人間関係のなかで過ごしてきた子どもたちにとって、狭いコミュニティのなかでの日々は、居心地が良く安心感に包まれている子もいれば、反対に、満たされない想いや不安・不満が積もり、吐き出すこともできずどうやったら解決や回避できるのかわからず、1人抱えこみながら毎日を過ごしている子もいるでしょう。

日々、学校や各家庭でも子どもたちと言葉をかわしたりして寄り添い、ちょっとした変化やサインを見逃さないよう関わっているつもりでも、把握できていないことはたくさんあると思います。学校や各家庭だけでは、子どもたちを見守り支えていくことは難しいこともあるのかもしれない。

では、私達大人はなにか他にできることはないのでしょうか。習い事や塾、隣近所の人や友達の家族。地域の方の目が子どもたちの安心感や支えになっていることもあるのではないのでしょうか。

「こんにちは」「おかえりなさい」と声をかけてもらったことで、「気にかけてくれる人がいるんだ」と、なんだかほっと安心できたり、「ありがとう」「いつも頑張ってるね」というたった一言で、認めてもらっていると自信に繋がったり。そんな日々の小さな温かさが、子どもたちの安心感や自己肯定感に繋がり、壁にぶつかった際にも乗り越えていける力を育む手助けになるのではないのでしょうか。

知っている人だけが自分を支えてくれているわけではありません。見ず知らずの人でも、自分を見守ってくれていて、何かあれば助けてくれるのだと、子どもたちに行動で伝えることができるのではないのでしょうか。私達大人の温かい前向きな行動が、子どもたちへのメッセージに繋がります。

「地域の目、大人の目」についてみなさんも一緒に考えてみませんか？私達の温かい前向きな言葉や行動が、子どもたちの心を育むきっかけのひとつになるかもしれません。

# 今必要な「当事者意識」を育てる教育

副校長 中嶋 秀雄

最近、「自立した子の育て方」という本に出会いました。著者は横浜創英中学・高等学校長、前千代田区立麴町中学校校長の工藤勇一さんです。その中で、「18歳の意識調査」というアンケートの結果が紹介されています。インターネットを使って、インド・インドネシア・韓国・ベトナム・中国・イギリス・アメリカ・ドイツ・日本の各国1000名の17歳～19歳の若者に行っている調査で、2018年から30回以上、様々なテーマで実施されています。

2019年に行われた「社会や国に対する意識調査」の一部をご覧ください。

自身についての質問	日本(%)	他国平均(%)
自分を大人だと思う	29.1	76.5
自分は責任がある社会の一員だと思う	44.8	87.2
将来の夢を持っている	60.1	92.6
自分で国や社会を変えられると思う	18.3	58.3
社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している	27.1	74.6
自分の国はよくなると思う	9.6	49.7
国の役に立ちたいと思わない	14.2	5.0

いかがでしょう。非常に残念な結果になっていると思いますが、なぜこんなことになってしまうのか。本の中で著者は次のように書いています。

調査結果を一言で総括するならば、今の日本の若者は「当事者意識」が決定的に欠如しているということになります。「社会や国の未来も、自分の幸せも、周囲の誰かがどうにかしてくれるはずだ」「社会が問題を抱えたり、自分が不幸せになったりしたら、それは周囲の大人のせいだ」。日本の学校教育を受けた子どもたちには、このような極端な受け身の思考回路が出来上がりやすいのです。では、なぜ日本では「当事者意識」のない子どもたちが育つのでしょうか。それは教育を含め、日本の社会全体がサービス産業化してしまったからだと考えます。私たち大人はとにかく子どもたちに手をかけすぎです。手をかければかけるほど子どもは自立できなくなり、自分がうまくいかないことを誰かのせいにしてしまいます。

東林中学校の教育目標は「心身の充実を図り、自立心を高める」です。東林中の子どもたちには、将来、自分の力で生きていくことの出来る自立した大人になって欲しいのです。そのためには中学生のうちから、自分で考え、行動させ、社会の一員としての当事者意識を育てることが必要です。これからも、そんな教育を目指して学校と家庭で力を合わせていきたいと思っています。



## 標準服リユース販売のお知らせ



今年度も標準服リユース販売（申し込み受付）を行います。

卒業生や会員からの提供品ですので、サイズや状態はさまざまです。販売価格は一点およそ100～3000円です。標準服のほか、体育着やジャージなどの提供品もあります。

お子さんのサイズを予め控えてお越しいただくか、お子さんと一緒にサイズ確認されることをお勧めします。この機会に、ぜひお立ち寄りください。

○ 日 時： 12月20日（月）～22日（水）3日間 いずれも 13：30～16：30

○ 場 所： PTA会議室 （教室棟2F 多目的ホール向かい）



○ 販売方法： 申し込み抽選制

- 当日、申込用紙にご記入の上、PTA 会議室の箱にお入れください。
- 抽選に当たった場合は、1月12日（水）の昼休み、生徒にPTA 会議室に取りに来てもらい、品物と請求書をお渡しします。1月13日（木）に代金と請求書をお手持ちの封筒に入れ、学年・クラス・生徒氏名を記入し、お子さんを通して、担任の先生に渡して下さい。（朝のうちに渡すようお声かけ下さい）

提供BOXを東林中の職員玄関前に常設しておりますので、ご不要になりました標準服、体育着、ジャージなどがございましたら、お洗濯の上、ご提供よろしくお願いたします。

卒業生並びに卒業生の保護者の方にもお声がけ頂ければ幸いです！



## 秋苗植栽の報告



毎年、春と秋に、『花のまちづくり・みどりいっぱい運動』をおこなっている、公益財団法人相模原市まち・みどり公社より花の苗をいただいています。

環境美化委員さんが、色とりどりの苗をきれいに植えてくれました！



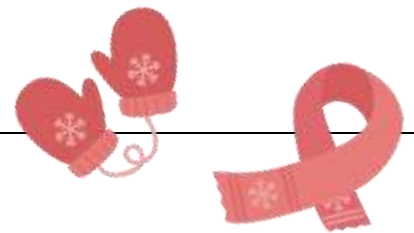


# 運営委員会活動報告



## ◆各委員会より報告◆

1 学年委員会	2 学年委員会
子どもたちのお手伝いとなるようなボランティア活動をしたいと思っています。 学年主任の先生にご協力いただきながら、活動内容を話し合っています。	10月に予定しておりました2学年委員によりますりユース販売は、準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑み、中止とさせていただきます。
3 学年委員会	校外委員会
卒業記念品についての話し合い、メッセージ集のお手紙作成をしました。また、飛鳥祭体育部門での受付のお手伝いをしました。  残りわずかの義務教育、子供たちの成長を楽しみましょう♪	コロナウイルスの影響で、校外委員会の予定がほぼなくなってしまいました。引き続き、子どもたちの安全を見守っていきます。



## ◆本部の主な对外活動の報告と予定◆

- 10/8(金) 東林地区まちづくり会議
- 10/23(土) 市P連 第2回代表者会
- 12/2(木) 市P連 第3回代表者会
- 12/21(火) 東林地区まちづくり会議
- 1/15(土) 賀詞交換会

※緊急事態宣言の発令により、9月の各委員会・運営委員会・本部の对外活動は行うことができませんでした。



## 推薦委員会より

令和4年度PTA本部役員・会計監査候補者推薦用紙提出のご協力ありがとうございました。  
これからの推薦活動におきまして、会員の皆さまのご協力をお願いいたします。

3学期もよろしく

お願いいたします。

